

「健康で心豊かに長生きをしましょう。」

令和元年 6 月 27 日
村山 章

サムエル・ウルマンの「青春」という詩は昔から有名です。いろんな方々が座右の銘にされていたのを目にしました。パナソニック株式会社の創業者である松下幸之助氏も次のように要約し、座右の銘にしていたそうです。「青春とは心の若さである 信念と希望にあふれ、勇気にみちて日に新たな活動を続けるかぎり青春は永遠にその人のものである」。

私たちの日々の生活を考えると、流されて同じように生きていた方がラクです。しかし、そうなることのないよう、「青春」を見習って一日一日を大切に精進して生きたいものです。この詩の内容のように、情熱と挑戦する気持ちを持ち続けられれば一生青春でいられると思います。誰もが死という最大恐怖を受け入れる時期が必ず訪れます。そのときまで「今が青春。一生青春」という心を抱いて生きていきたいものですね。

ウルマンの「青春」は、1950年代から日本に広がり始めました。そしてこの考え方は、高度成長時代の日本の経済発展に大いに役立ったと言われていています。その当時からいくつかの時代を経て、20世紀は文明の時代、21世紀は文化の時代へと変わったと言えるでしょう。被災地へのボランティア活動、民間の子供食堂など現在は、ボランティア活動がたいへん盛んです。サッカーW杯の試合後に日本人が行った掃除は、世界的に注目を集めました。パリの街並みはさぞ壮麗と思いがちですが、道路には空き瓶や空き缶が転がっていました。そこで、見かねた日本人が掃除を始めたそうです。最初は清掃員の仕事を奪うという批判もあったようですが、日本人の寡黙さと愚直さが救いとなって、いつしかフランス人も参加するようになったそうです。

人様を大切にし、公共を重んじる日本人の生き様、日本の文化が世界を救うのかもしれませんが。私たちの日々の仕事でも、私利私欲で考えるのではなく、仕事を通していかに社会に役立つかを考えて行動したいものです。それが自身の幸福にもつながります。